

守山企業景況調査報告書

(第6回)

平成23年1月～平成23年3月期 実績

平成23年4月～平成23年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 23 年 1 月～平成 23 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	17	85. 0%
製造業	13	13	100%
建設業	12	12	100%
サービス業	20	16	80. 0%
卸売業	6	6	100%
合 計	71	64	90. 1%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 23 年 1 月～平成 23 年 3 月、見通しを平成 23 年 4 月～平成 23 年 6 月とし、調査時点は平成 23 年 3 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算 (経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算 (経常利益) の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 23 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないとなる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいいると考えられる。

平成 23 年 1 月～3 月期の調査結果では前回調査に比べて、業況と採算（経常利益）が上向き、売上高と資金繰りがわずかに下向きとなった。この結果は、前回調査時点での見通しよりも良い結果であった。業況が上向きの結果となった要因は、製造業、サービス業、卸売業の業況が上向きになったことによるものである。売上は、卸売業が上向きの結果を出したがその他の業種では下向きとなった。採算は、製造業、小売業、卸売業が上向きであり、資金繰りは建設業で上向きとなった。

平成 23 年 4～6 月期の見通しでは、採算以外は大きく下向きの見通しである。

<業況>

平成 23 年 1 ～3 月期の業況は▲18.8 と前回調査に比べて 6.6 ポイントの改善となった。特に製造業の業況は 23.1 で前回調査に比べて 7.7 ポイント上昇している。卸売業も 0.0 となり前回調査が▲33.3 であったことを考えると大幅な改善となった。サービス業は今回調査で▲18.8 ではあるが前回調査から 22.4 ポイント改善している。一方で小売業は▲52.9 と過去 1 年間で最低の数値となり、建設業は▲25.0 と前回調査より悪くなった。

4～6 月期の見通しは▲36.7 と大きく業況が悪くなると見通す回答が多かった。

<売上高>

売上高は、50.0 という非常に高い DI 指数となった卸売業以外は前回調査より数値が下った。全体では▲6.3 である。業況では数値の上がった製造業も 15.4 と前回調査より 15.4 ポイント下っている。前回調査で 0.0 であった小売業は▲11.8、同様に前回 10.0 の建設業は▲16.7、サービス業は▲29.4 から▲31.3 となった。

4～6 月期の売上高見通しは全体で▲43.8 と大幅なマイナスとなっている。

<採算（経常利益）>

採算は全体で▲51.6 となり、前回調査の▲53.1 より少し数値がよくなかった。業種別では、製造業が 7.7 となり DI 指数がプラスとなった。小売業も▲40.0 から▲35.3、卸売業が▲33.3 から▲16.7 とマイナスではあるが改善している。逆に建設業の採算は▲55.6 から▲66.7、サービス業で▲37.5 から▲43.8 と悪化している。

4～6 月期の採算見通しは、▲45.3 とわずかに改善の見通しとなっている。

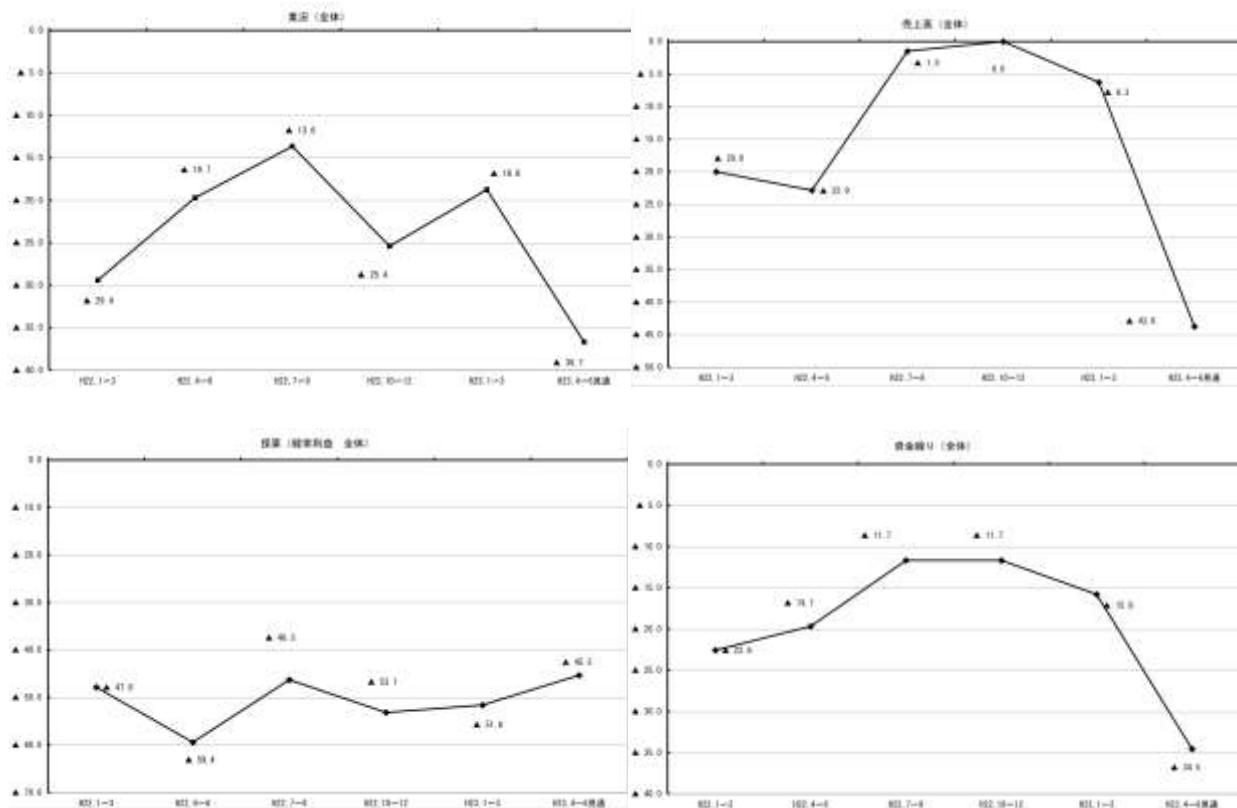
<資金繰り>

1～3月期の資金繰りDIは▲15.8となり、前回調査の▲11.7よりも少し数値が悪くなつた。業種別では建設業が▲22.2から▲9.1と資金繰りが良化しているが、小売業、製造業、サービス業、卸売業ではいずれも数値が悪くなつており、資金繰りが悪化している。

4～6月期の資金繰り見通しは、全体で▲34.5であり、業種ごとに見ても全ての業種で資金繰りの悪化が見込まれている。

<その他の意見>

- ・震災による商品の入荷が不安定になつており、客先の今後の投資見送り等明るい兆しがない。
- ・震災の影響、公共投資の減少、原材料の価格高騰、原材料の確保困難等、4月以降は全てにおいて悪化すると思われる。
- ・70歳以上世代の高所得層への課税等により、若年層への仕事や所得の配分施策が望まれる。
- ・先行きが不安定で、消費ではなく貯蓄が優先している。大企業だけでもいいから社員に安定感を与えられれば全体がよくなるのではないか。



小売業

小売業の業況 DI は、▲52.9 と前回調査の▲38.9 に比べて 14 ポイント落ちている。平成 22 年 7 月～9 月期の▲23.5 をピークに 2 四半期連続のマイナスである。平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI でも業況は▲50 となっており、厳しい状況にあると考えられる。

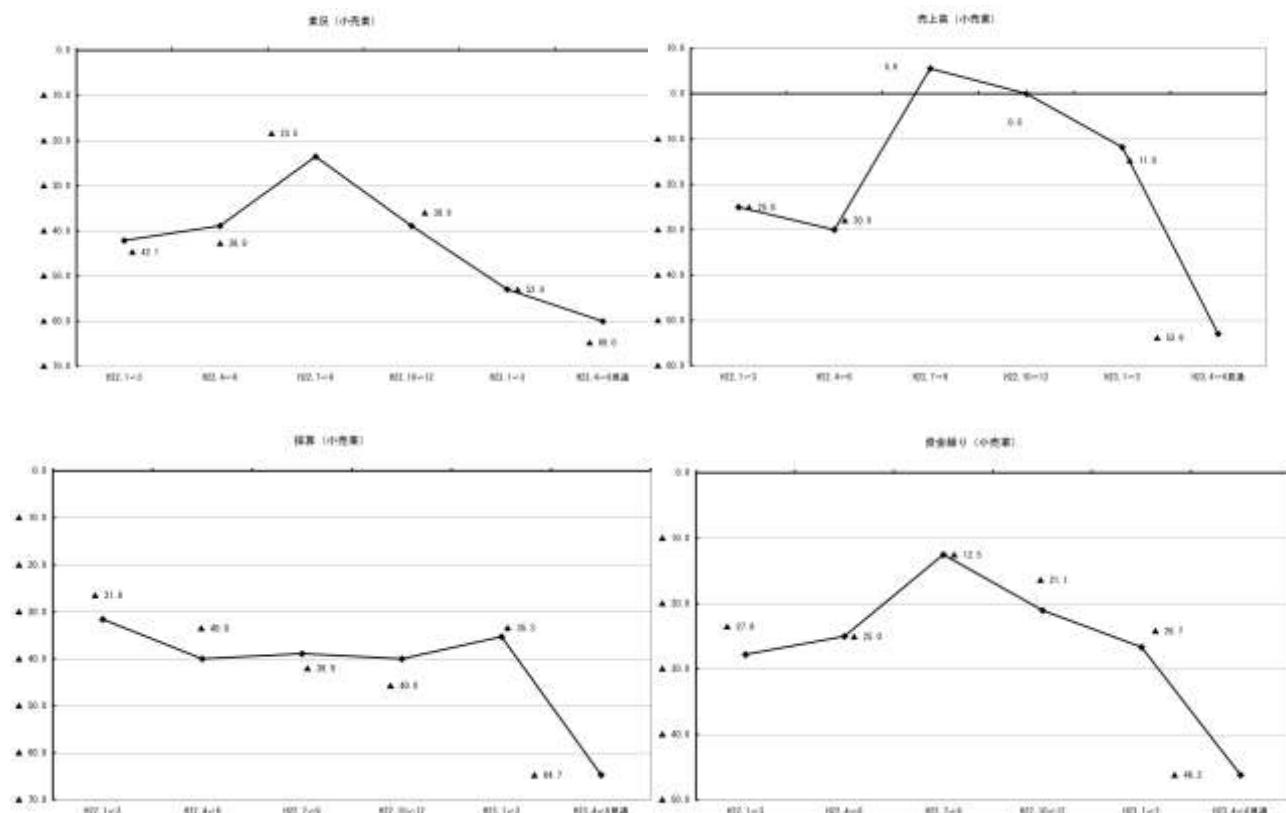
売上高 DI は前年同期比で▲11.8 となった。前回調査が 0.0 であったのでこれもマイナス傾向にある。平成 22 年 10 月～12 月期との比較では▲47.1 と売り上げが落ち込んでいる様子がうかがえる。売上の内容である客単価は前年同期比で▲5.9、客数が▲35.3、前四半期比では客単価が▲23.5、客数が▲41.2 である。

採算（経常利益）は前年同期比で▲35.3、1 月～3 月期単独で▲18.8 である。前年同期比ではわずかに改善が見られるが、DI としては横ばい状態と言える。

その一方で、商品仕入単価は前年同期比較で 5.9 となっており、これは商品仕入単価の上昇を表しており、4 月～6 月期見通しでも商品仕入単価が上昇すると見る回答が 41.2% に上っている。

資金繰りは前年同期比で▲26.7 であり、2 四半期連続で数値が悪くなっている。

4 月～6 月期の見通しは非常に暗く、業況では▲60、売上高が▲52.9、採算▲64.7、資金繰りが▲46.2 と 1 月～3 月期に比べて DI 指数がどの項目も悪くなっている。



製造業

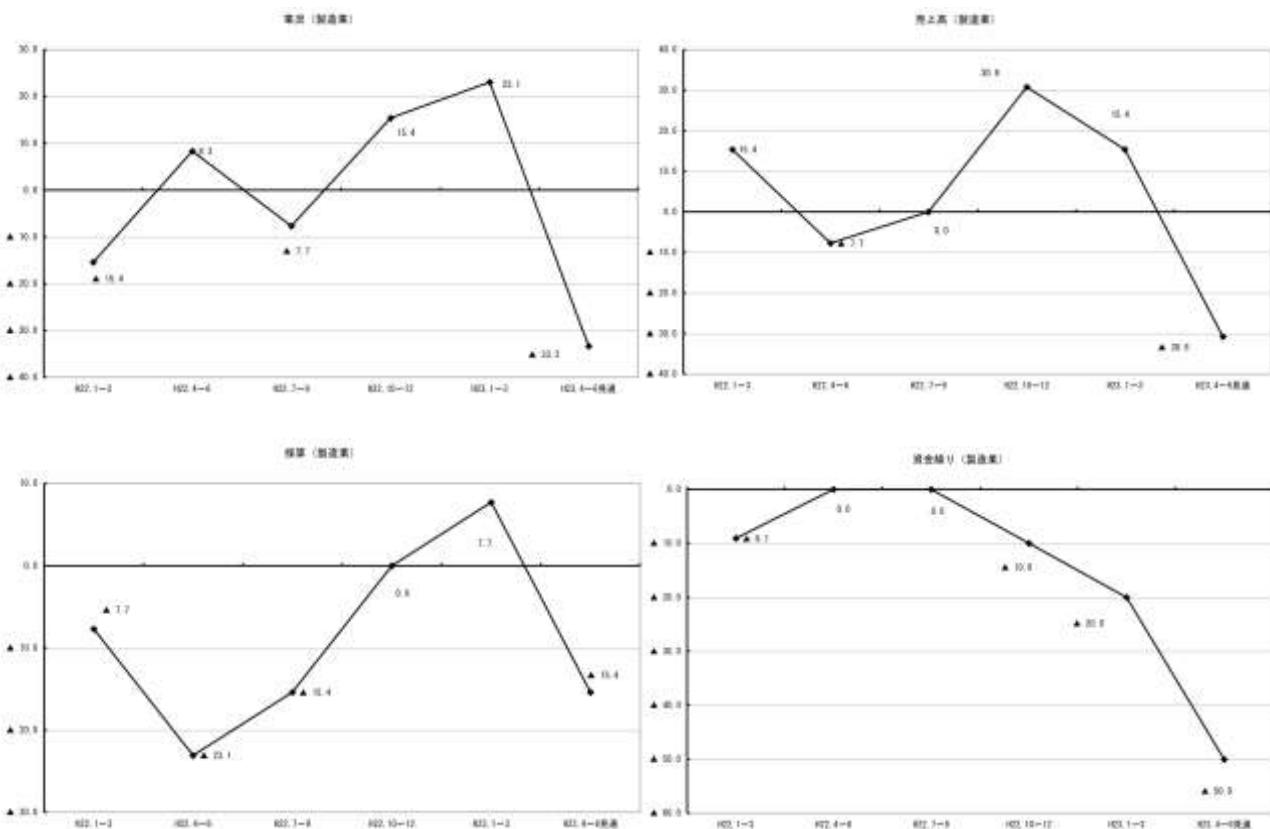
製造業の業況 DI は前年同期比との比較で 23.1 と 2 四半期連続でプラスとなり、数値も大きくなつた。しかし、平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI では 0.0 であり、今回調査の平成 23 年 1 月～3 月期単独の業況 DI は▲15.4 である。これは前年同期と比較すると良いと言えるが、ここにきて良いと感じる比率が低くなつてきていることを示している。

売上高 DI は前年同期比で 15.4、前四半期比較で 7.7 となつてゐる。中身をみると、売上数量が増加したと回答した企業割合が前年同期比で 46.2%、前四半期比較で 38.5% となつてゐるが、売上単価が上昇した企業は前年同期比で 15.4%、前四半期比較でも 15.4% となつてゐる。売上単価は上がらないが売上数量が増えて結果的に売上高を増やしている格好になつた。

採算（経常利益）は前年同期比で DI が 7.7 とプラスになつた。売上高の上昇を背景に採算が好転している様子で、1 月～3 月期単独の採算 DI は 53.8 とハイスコアであった。

資金繰りは前年同期比で▲20.0 と 2 四半期連続で悪くなつてゐる。

4 月～6 月期の見通しを見ると、業況は▲33.3 と 56.4 ポイントも悪くなり、売上高も▲30.8 と 45.4 ポイントマイナス、採算は▲15.4 と 23.1 ポイントマイナス、資金繰りは▲50.0 の 30 ポイントマイナスになつてゐる。これまで順調に推移してきた製造業であるが、4 月～6 月期は相当厳しいという見通しになつた。



建設業

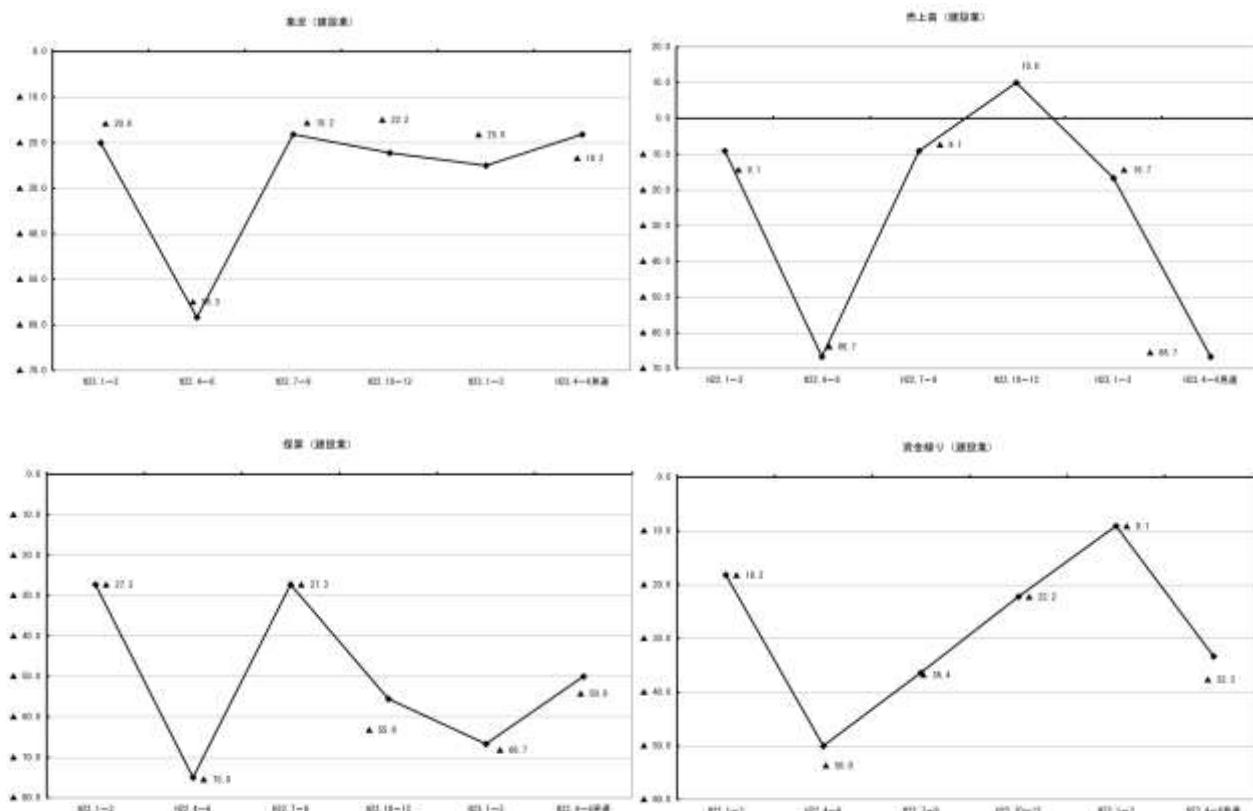
建設業の前年同期比業況 DI は▲25.0 で前回調査と比べて 2.8 ポイント下った。平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI では▲27.3 である。注目すべきは、回答の中身で、業況が好転したとする回答はどちらも 0% でこれを見る限りでは、業況は好転していないと言える。

売上高の前年同期比 DI は▲16.7 で、前四半期比較では▲18.2 であった。こちらは売上高が増加したとする企業割合が前年同期との比較で増加したと回答したのが 16.7%、前四半期との比較で増加した企業割合が 18.2% あった。

採算（経常利益）の前年同期比 DI は▲66.7 と採算が悪化している。1 月～3 月期単独での採算 DI は 8.3 とプラスであるが、その中身はほとんどが収支トントンという回答であった。また、材料仕入単価が上昇しているとする回答が 41.7% 寄せられており、採算を悪化させる要因の 1 つになっている。

資金繰りは▲9.1 と 3 四半期連続の改善であった。

4 月～6 月期の見通しでは、業況は▲18.2 と若干の改善予測であるが、売上高は▲66.7 と急激な売上悪化予測となっている。採算は▲50.0 で改善予測となっているが、低水準である。さらに資金繰りは▲33.3 となっており、3 四半期連続での改善が一気に悪化する予測となっている。



サービス業

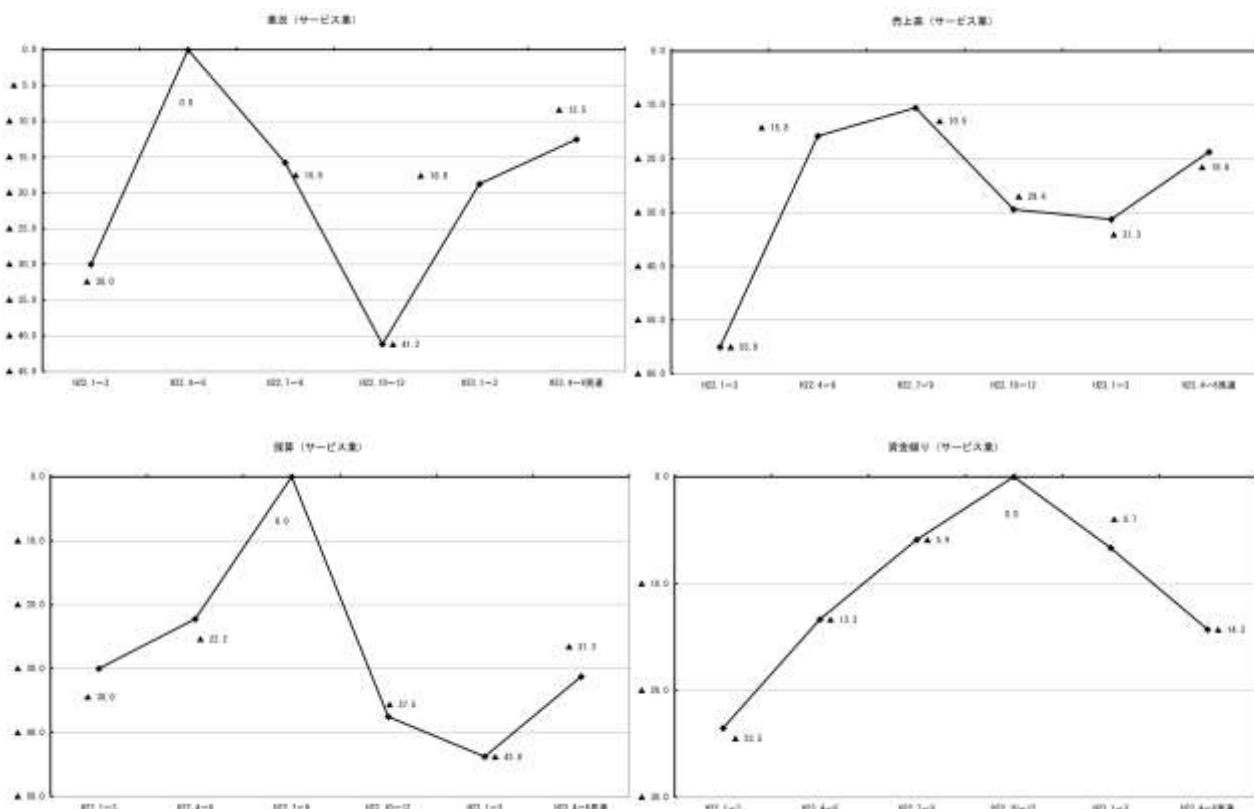
サービス業の業況前年同期比 DI は▲18.8 で前回調査の▲41.2 と比較すると 22.4 ポイント改善している。平成 22 年 4 月～6 月期の 0.0 をピークに悪化していた DI 指数であるが、ここに来て反転したことになる。また、平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI では▲28.6 であった。

売上高 DI は前年同期比で▲31.3 とこちらは少し悪くなった。前四半期との比較では▲50.0 とかなり低い数値であることに加えて、客数が前四半期と比べて減少しているとする割合が 56.3%、客单価が前四半期比較で減少しているとする割合が 43.8% となっており、増加と答えた割合はいずれも 0% であった。

採算（経常利益）は▲43.8 となり、過去 1 年間で最低の数字となった。ただし、1 月～3 月期単独での採算を見ると黒字企業割合が 26.7% であり、採算だけを捉えると黒字企業と赤字企業が 2 分化された格好になった。

資金繰り DI は▲6.7 と前四半期の 0.0 からマイナス陥った。これも中身をみると、回答企業のほとんどが資金繰りについて変化なしと答えている。

4 月～6 月期の見通しでは、業況が▲12.5 と 1 月～3 月期に比べて改善しており、売上高も▲18.8 と 12.5 ポイントの改善、採算が▲31.3 と 17.5 ポイントの改善である。しかし、資金繰りは▲14.3 と悪化を予測する割合が増えている。



卸売業

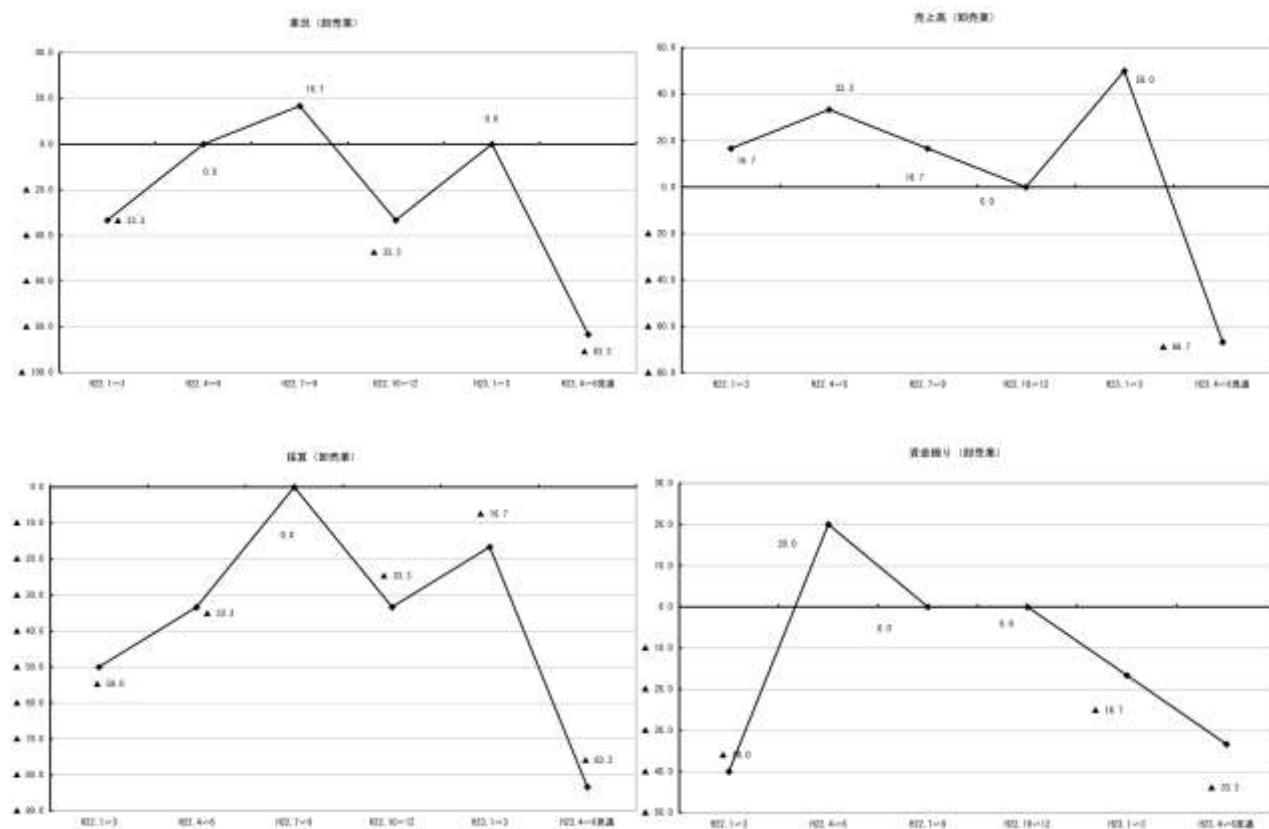
卸売業の前年同期比の業況 DI は 0.0 となった。前回調査が▲33.3 であるので大きく改善している。平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI も 0.0 で業況に変化がないようである。

売上高の前年同期比 DI は 50.0 と高いものになった。しかし、平成 22 年 10 月～12 月期との比較 DI では▲50.0 と全く反対の結果がでてしまった。前年同期が卸売業にとってあまりに悪い時期であった考えることができる。1 年前に比べると相当好転しているが、3 カ月前との比較では悪くなっているのである。

採算（経常利益）の前年同期比 DI は▲16.7 で、前回調査の▲33.3 からすると 16.6 ポイントの改善が見られる。しかし、他業種と同様に商品仕入単価は上昇しているようで、前四半期との比較で商品仕入単価が上昇したとする企業割合が 66.7% あり、採算の向上に足かせとなっているようである。

資金繰りは DI は▲16.7 であり、平成 22 年 4 月～6 月期以来 0.0 以上であった資金繰り DI がマイナスに転落した。

4 月～6 月期の見通しでは業況は▲83.3、売上高も▲66.7、採算▲83.3、資金繰り▲33.3 とこれら 4 項目全てについて大幅な落ち込みである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算 (経常利益)	
	1月～3月期動向	4～6月期見通し	1月～3月期動向	4～6月期見通し	1月～3月期動向	4～6月期見通し
全 体	▲ 18.8	▲ 36.7	▲ 6.3	▲ 43.8	▲ 51.6	▲ 45.3
小売業	▲ 52.9	▲ 60.0	▲ 11.8	▲ 52.9	▲ 35.3	▲ 64.7
製造業	23.1	▲ 33.3	15.4	▲ 30.8	0.0	▲ 15.4
建設業	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 16.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 18.8	▲ 12.5	▲ 31.3	▲ 18.8	▲ 43.8	▲ 31.3
卸売業	0.0	▲ 83.3	50.0	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 83.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) 水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1月～3月期動向	4～6月期見通し	1月～3月期動向	4～6月期見通し	1月～3月期動向	4～6月期見通し
全 体	4.8	▲ 11.5	▲ 36.8	▲ 40.3	0.0	▲ 3.3
小売業	▲ 18.8	▲ 26.3	▲ 46.2	▲ 50.0	14.3	6.7
製造業	53.8	25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	15.4	16.7
建設業	8.3	▲ 25.0	▲ 36.4	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 16.7
サービス業	▲ 6.7	6.3	▲ 53.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 18.8
卸売業	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	▲ 83.3	▲ 16.7	0.0

		3カ月前との比較					
		資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1月～3月 期動向	4～6月期 見通し	1月～3月 期動向	4～6月期 見通し	1月～3月 期動向	4～6月期 見通し	
全 体	▲ 15.8	▲ 34.5	▲ 2.1	▲ 8.3	▲ 2.2	▲ 4.3	
小売業	▲ 26.7	▲ 46.2	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 20.0	
製造業	▲ 20.0	▲ 50.0	11.1	10.0	11.1	10.0	
建設業	▲ 9.1	▲ 33.3	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 9.	
サービス業	▲ 6.7	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 9.1	0.0	0.0	
卸売業	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	